



## 地球史上の生物大絶滅について

町史編さん委員 岡本 金一(地質担当)

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう今日この頃、県内は比較的穏やかな推移に安どしています。現在、世界の人口約 77 億人として、死者数は約 146 万人(11 月 30 日現在)に達し、総人口の約 0.019%ということになります。今後、ワクチン等により、早急に収束することを切に願いたいと思います。

人類の歴史上、腸チフス、ペスト等の世界的な大流行(パンデミック)により、多くの生命が奪われ、人類とウィルスの戦いが続いてきました。中でも 14 世紀のペストは、一説には当時の人口約 2 億人の 25%、約 5000 万人が亡くなったとも記録されています。

しかし、地球の歴史上では、白亜紀末(約 6600 万年前)に恐竜等地球上の全生物の 70%が大絶滅し、三畳紀末(約 1 億 9900 万年前)には、アンモナイト等の全生物の 76%が絶滅しています。さらに、ペルム紀末(約 2 億 5100 万年前)には、地球史上最大の全海生生物の 90~95%が絶滅しています。更に遡り、デボン紀後期(約 3 億 7400 万年前)には、全海生生物の 82%が絶滅し、オルドビス紀末(約 4 億 4400 万年前)には、三葉虫やサンゴ類等の 85%が絶滅しています。

この五つの絶滅は、大絶滅のビッグファイブと呼ばれていますが、カンブリア紀末(約 4 億 8800 万年前)や原生代末(約 5 億 4500 万年前)等にも生物の絶滅が起こっています。絶滅の原因は、地球の地殻変動に伴う火山活動、火山活動に伴う大量の二酸化炭素による気温上昇、小惑星の衝突、氷床の発達による海水準の低下、磁極の移動による気候変動、ウイルス等が考えられています。

一方、現在の私たちの日常でも絶滅危惧種や準絶滅危惧種に指定されている生物が数多く知られています。平成 10 年(1998)のアメリカ自然史博物館の調査では、生物学者の 70%は、現在(完新世)も大絶滅が起こっていると考えているとのことです。

これから、インフルエンザの季節になりますが、新型コロナウイルス感染症対策とともに十分な注意が必要となります。昨今は、地球自体もゲリラ豪雨等の異常気象や大地震等の自然災害の脅威が高まっています。

私自身も、十数年前に秋田県立脳血管研究センターの人間ドックを受診したところ、心電図を何回も取られて、所長先生直々に「あなたはいつ死んでもおかしくない!」と宣告されました。すぐに秋田赤十字病院でカテーテル検査を受け、ステントを挿入し、以来血液をサラサラにする薬を飲み続けています。思えば、当時よく寝汗をかいておりましたが、これは健康上大問題とお聞きしたことがあります。さらに 5 年程前には、大腸がんであると判明し、摘出手術、隔壁ヘルニア対策手術、がんの再発による摘出手術、その後の抗がん剤治療と入退院の繰り返しでした。今も、半年に一度 CT 検査、内視鏡検査を受けています。つまり、既往症を持つ高齢者で新型コロナウイルスの餌食になりかねない、正に絶滅危惧的な人間であります。

小坂町の皆様におかれましては、県外や国外から多数の訪問者が訪れる環境にあり、一日も早く新型コロナウイルス感染症への万全の対策が整備されるよう願っております。また、定期的に健康診断を受診され、健康維持に努めていただきたいと思います。

## 水道管の凍結に注意!!

凍結対策は  
お早めに

水道管の凍結による漏水は、修理代がかかるばかりでなく、近隣世帯の水圧低下などを招く場合があります。朝起きて水が出ないなど凍結の可能性があるときは、すぐに「町指定水道工事指定店」に連絡してください。

※水道工事指定店は町ホームページに掲載しています。

■お問い合わせ先 建設課水道班 (TEL29-3911)

## 新しく委嘱された民生委員をご紹介します

10月5日付で岩沢地区担当の民生委員(兼児童委員)に池田 律子さんが委嘱されました。

民生委員は厚生労働大臣から委嘱を受け、支援が必要な人の見守りや訪問をはじめとした、住民と行政の橋渡し役を担っていますので、お気軽にご相談ください。

また、各地区の担当民生委員を知りたい場合は、事務局までお問い合わせください。

◆事務局 福祉課町民福祉班 (TEL29-3925)

## 鳥インフルエンザへの 注意喚起のお知らせ

11月5日、香川県で高病原性鳥インフルエンザが確認されたため、国内対応レベルが最大に引き上げられています。

鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等の特殊な場合を除き、通常では人に感染しないと考えられますので、過度に心配する必要はありません。

また、感染を予防するため、次の事項にご注意ください。

- 死んだ野鳥は素手で触らないでください。
- 野生の鳥は、環境の変化に耐えられず死んでしまうこともあります。野鳥が死んでいても、鳥インフルエンザを直ちに疑う必要はありません。
- 手洗い、うがいを徹底してください。
- 不用意に渡り鳥に近づかないでください。また、餌等を与えないでください。
- 愛玩用の鳥類を飼育されている方は、野鳥との接触が起らないよう管理してください。
- 同じ場所でたくさんの野鳥が死んでいたら、お問い合わせ先までご連絡ください。

■お問い合わせ先

鹿角地域振興局農林部森づくり推進課 (TEL23-2275)  
観光産業課農林班 (TEL29-3912)